

日本看護協会は、国民への質の高い医療の提供を目的に資格認定制度を創設し、28年が経ちました。特定の専門看護分野の知識・技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的として14分野・3,096名の専門看護師と、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的に30分野・22,867名の認定看護師を社会に送りだしています。また、特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育が開始され、2020年度より新たな制度で学んだ認定看護師は2,052名※となりました（2023年2月現在）。宮崎県内では、専門看護師12名（3分野）と認定看護師174名（26分野）が活動し、特定行為研修を修了した認定看護師は9名※となり、より専門性の高い看護を提供しています。

宮崎県看護協会は、県民の皆様にも県内で活動する専門看護師・認定看護師の活動を広く知っていただき、皆様のお役に立てるような情報を発信する活動を行っています。

（※内数）

## 自分で守る「自助」

救急看護認定看護師 小川 恵（宮崎市郡医師会病院）

3月といえば、忘れてならないのが12年前に発生した、東日本大震災です。宮崎県東方沖の日向灘では、ほぼ十数年から数十年に一度の割合でM7クラスの地震が発生し、多くの場合津波を伴うと言われています。



皆様は、避難経路の確認、避難グッズの準備はできていますか？  
 普段飲まれている内服薬の把握をされていますか？  
 避難グッズの定期的に入れ替え、点検していますか？

今回は、災害時の病院受診や災害時の備えについてお伝えします。

宮崎県内には、12施設の災害拠点病院があります。災害拠点病院とは、**災害で被災された重症傷病者**を24時間緊急対応する施設です。よって、普段のお薬の処方や一般外来受診などに関しては、かかりつけ医や開業医の受診となります。東日本大震災では、服用中の薬が津波で流され、内服薬の名前が分からず、類似薬を処方された事例があったようです。内服薬の内容を把握していると、避難所でも同効果の薬剤を処方してもらえるケースがあります。災害発生時は、地域全体が混乱していると思います。この機会に、かかりつけ医や家族と、災害時に自分たちはどう行動すべきか、相談し備えをしておくことをお勧めします。



避難経路の確認

## 自分で守る自助



避難グッズの点検、入れ替え



内服薬